
「新しい技術・家庭 技術分野」 年間指導計画作成資料

※題材ごとの配当時数，主な学習活動，評価規準などは，今後変更になる可能性があります。ご了承ください。

東京書籍

指導計画例①

教科横断的な学びのつながりを意識した年間指導計画

カリキュラム・マネジメントの観点から、小学校（図画工作科などでのものづくりやプログラミング体験）、中学校（理科、社会など）、高等学校（情報など）との教科横断的な学びのつながりを意識することで、より効率的な学習指導を展開する例である。また、3学年間の発達段階に応じて、技術による問題解決の範囲を生活、学校、地域、社会へと広げ、生徒の技術リテラシー（技術ガバナンス力、技術イノベーション力）を育むことをねらいとしている。第3学年では、「D(3)計測・制御のプログラミングによる問題解決」において、「C(2)エネルギー変換の技術による問題解決」の要素を加え、統合的な問題解決に取り組ませる。

		4月			5月			6月			7月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35						
第1学年	題材	技術分野のガイダンス			A(1)アイ 材料と加工の技術の原理・法則と仕組み			A(2)アイ 材料と加工の技術による問題解決										A(3)アイ 社会の発展と材料と加工の技術			D(1)アイ,D(2)アイ 情報の技術の原理・法則と仕組み			D(2)アイ 双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決																		
	時数	2			5			13										2			6			7																		
	学習内容	<ul style="list-style-type: none"> 技術分野の学習の見直し 学習内容の紹介 			<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの材料と加工の技術 木材、金属、プラスチックの特性 材料に適した加工方法 丈夫な製品を作るために 材料と加工の技術の工夫の読み取り 			<ul style="list-style-type: none"> 問題の発見、課題の設定 製作品の構想、設計 製図 製作の計画 作業手順を考えた製作 問題解決の評価、改善・修正 										<ul style="list-style-type: none"> 材料と加工の技術の最適化 これからの材料と加工の技術 			<ul style="list-style-type: none"> 情報の技術とは 情報のデジタル化 情報通信ネットワークの仕組み 安全に利用するための情報モラル 安全に利用するための情報セキュリティ 情報の技術の工夫の読み取り 			<ul style="list-style-type: none"> 双方向性のあるコンテンツとは 問題の発見、課題の設定 コンテンツの構想 コンテンツのプログラムの制作 問題解決の評価、改善・修正 																		
		身の回りの整理をしよう (教 p.46 マルチラック)																																			クラス連絡を正確にしたい (教 p.230 クラス伝言板システム)					
第2学年	題材	B(1)アイ 生物育成の技術の原理・法則と仕組み						B(2)アイ 生物育成の技術による問題解決			B(3)アイ 社会の発展と生物育成の技術			C(1)アイ エネルギー変換の技術の原理・法則と仕組み						C(2)アイ エネルギー変換の技術による問題解決						C(3)アイ 社会の発展とエネルギー変換の技術																
	時数	B(1)6/B(2)6						2			10						9						2																			
	学習内容	<ul style="list-style-type: none"> 生物育成の技術とは 作物の育成環境を調節する技術 作物の成長を管理する技術 動物を育てる技術 水産生物を育てる技術 生物育成の技術の工夫の読み取り 問題の発見、課題の設定 生物の育成計画 成長に合わせた適切な育成 問題解決の評価、改善・修正 						<ul style="list-style-type: none"> 生物育成の技術の最適化 これからの生物育成の技術 			<ul style="list-style-type: none"> エネルギー変換の技術とは 発電の仕組みと特徴 電気を供給する仕組み 電気回路について考えよう 電気機器を安全に使用するための技術 運動エネルギーへの変換と利用 回転運動を伝える仕組み 機械が動く仕組み 機械の共通部品と保守点検の大切さ エネルギー変換の技術の工夫の読み取り 						<ul style="list-style-type: none"> 問題の発見、課題の設定 電気回路または機構モデルの設計・製作 問題解決の評価、改善・修正 						<ul style="list-style-type: none"> エネルギー変換の技術の最適化 これからのエネルギー変換の技術 																			
		品質の良い野菜を育てよう (教 p.105 ミニトマト)									暑い夏を快適に過ごしたい (教 p.177 携帯型扇風機)																															
第3学年	題材	D(3)アイ 計測・制御のプログラミングによる問題解決 ★統合的な問題解決										D(4)アイ 社会の発展と情報の技術			技術分野の学習を終えて																											
	時数	14										2			1.5																											
	学習内容	<ul style="list-style-type: none"> 計測・制御システムとは 問題の発見、課題の設定 計測・制御システムの構想 計測・制御システムのプログラムの制作 問題解決の評価、改善・修正 										<ul style="list-style-type: none"> 情報の技術の最適化 これからの情報の技術 			<ul style="list-style-type: none"> SDGsと技術との関わり 学んだことを社会に生かす 																											
		暑い夏を快適に過ごしたい (教 p.244 熱中症予防システム)																																								

備考

- ・「技術の見方・考え方」を働かせた深い学びになるように配慮する。
- ・生物育成の技術による問題解決については、年間を通して適切な時期に実施する。

* (知) …知識・技能 (思) …思考・判断・表現 (態) …主体的に学習に取り組む態度
 *★…「主体的に学習に取り組む態度」は、複数の学習内容にまたがる長期的な評価規準となる。

■ 1年

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点	
1 5 2	技術分野のガイダンス	A(1) B(1) C(1) D(1)	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの製品に込められた技術の工夫やアイデアを調べ、発表する。 技術の発達による生活や産業の変化を調べる。 身の回りの製品などを「技術の見方・考え方」の視点で観察する。 <p>・PDCAサイクルに沿って問題解決を行うことを確認するとともに、社会における問題解決も同様の流れであることを知る。</p> <p>・3学年間の学習内容を確認し、技術分野の学習を生かして、3年後にできるようになっていたことを内容ごとにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を参考に、身の回りの製品に込められた技術や技術の発達について調べさせ、技術分野の学習への関心を高める。 「技術の見方・考え方」とは、「生活や社会における事象を、技術との関わりの視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性などに着目して技術を最適化すること」であることを押さえる。 設計・製作を中心としたものづくりではなく、「技術による問題解決」に取り組むことを知らせる。 3学年間で学習する材料と加工、生物育成、エネルギー変換、情報の技術について、見通しを持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 3学年間の技術分野の学習に見通しを持ち、主体的に学習に取り組もうとしている。(態) 	
3 5 7	1編1章 材料と加工の技術の原理・法則と仕組み	①身の回りの材料と加工の技術	A(1) アイ	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの製品を見て、なぜその材料が使われているか知る。 身の回りの製品に使われている材料と加工の技術について調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの製品に使われている材料は、製品の強度や耐久性、安全性、費用、環境への負荷などに考慮して選ばれていることに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの製品に生かされている材料の特性と材料に適した加工方法について理解している。(知) ★主体的に材料と加工の技術について考えようとしている。(態)
		②木材、金属、プラスチックの特性	A(1) アイ	<ul style="list-style-type: none"> 木材、金属、プラスチックの特性について調べる。 木材、金属、プラスチックがどのような製品に利用されているかをまとめる。 <p>[他教科]</p> <ul style="list-style-type: none"> (小) 理科4年：金属、水、空気と温度 (小) 社会4年：人々の健康や生活環境を支える事業 理科1年：身の回りの物質とその性質 理科2年：原子・分子 理科3年：さまざまな物質とその利用 	<ul style="list-style-type: none"> 木材、金属、プラスチックの見本を準備し、実際に触らせたり、観察させたりするとよい。 見た目の違い 触ったときの触感 力を加える(曲げる) 重さ 加工のしやすさ など 身の回りの製品は、使用目的や使用条件に合わせて、最適な材料が選ばれていることに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 木材、金属、プラスチックなどの特性と特性を生かした利用方法について理解している。(知)
		③材料に適した加工方法	A(1) アイ	<ul style="list-style-type: none"> 工具や機器を加工の特性や方法に応じて分類する。 材料と目的に応じた工具や機器を選択する。 工具や機器を安全に使用方法や技術室の安全のための決まりを調べる。 簡単な加工体験を行う。 <p>[他教科]</p> <ul style="list-style-type: none"> (小) 図画工作：工作に表す活動 	<ul style="list-style-type: none"> 技術室にある工具や機器を調べさせ、加工方法によって選択する必要があることを知らせるとともに、作業の安全に注意を促す。 簡単な加工体験を行うことで、本題材(材料と加工の技術による問題解決)における製作品の完成度を高めることにもつながる。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的とする加工に応じた工具や機器について理解している。(知) 工具や機器を適切に選択し、安全に配慮しながら、簡単な製作品を製作できる技能を身に付けている。(知)
		④丈夫な製品を作るために	A(1) アイ	<ul style="list-style-type: none"> 製品を丈夫にするための材料と加工の技術の工夫について調べる。 部材の組み合わせや接合の方法などを工夫して製品を丈夫にする方法を考える。 <p>[家庭分野]</p> <ul style="list-style-type: none"> 住生活 	<ul style="list-style-type: none"> 段ボールや牛乳パックなどで作ったフレームを準備し、実験を行うとよい。 構造の違い 部材の違い 製品の丈夫さ、見た目、重さ、使い勝手などの視点で比較させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの製品を丈夫にする方法を調べる活動などを通して、構造と部材を丈夫にする方法について理解している。(知)

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
	⑤材料と加工の技術の工夫を読み取る	A(1)イ	<ul style="list-style-type: none"> 材料と加工の技術に込められた問題解決の工夫について考える。 身近な製品の問題解決の工夫などから、「技術の見方・考え方」について気付いたことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの製品が材料と加工の技術によって最適化されていることに気付かせる。 使用者の視点だけではなく、開発者の視点でも考えられるように配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> 材料と加工の技術に込められた工夫を読み取り、「技術の見方・考え方」に気付くことができる。(思)
8 5 20	1編2章 材料と加工の技術による問題解決				
	①問題を発見し、課題を設定しよう	A(2)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 身近な生活や学校などで、材料と加工の技術によって解決できる問題を見つける。 発見した問題を解決するための課題を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「技術の見方・考え方」を働かせて、問題を見いだすことができるように配慮する。 先輩の製作品や教科書などを参考に考えさせる。製品調査や家族へのインタビューなどを行うことも考えられる。 イメージマップなどの思考ツールを活用して、自分の考えをまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「技術の見方・考え方」を働かせて、問題を発見し、自分なりの課題を設定する力を身に付けている。(思)
	②製作品を構想し、設計しよう	A(2)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 課題を解決するために、使用目的や使用条件に合わせて、製作品の構想を具体化する。 機能の検討 材料の検討 構造の検討 加工方法の検討 製作品の構想を製作に必要な図に表す。 <p>[他教科]</p> <ul style="list-style-type: none"> (小)算数4年：立方体、直方体など立体図形、見取図、展開図 数学1年：平面図形、空間図形 	<ul style="list-style-type: none"> 製作品の構想を具体化する際は、製作品の形、大きさ、使いやすさ、丈夫さだけではなく、製作時間、かかる費用、使える材料などの制約条件や使用後、環境への負荷などについても考えさせる。 製作に必要な図は、等角図及び第三角法による正投影図を用いる。 知的財産を創造、保護及び活用することの大切さや技術に関わる倫理観について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 製作に必要な図の描き方を理解している。(知) 製作に必要な図に表すことができる技能を身に付けている。(知) 材料の選択や成形の方法などを構想し、設計を具体化する力を身に付けている。(思) ★自分なりの新しい考え方や捉え方によって、知的財産を創造するとともに、他者のアイデアを尊重し、それらを保護・活用しようとしている。(態)
	③製作の計画を立てよう	A(2)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 製作に必要な図を基に、部品表、材料取り図を作成し、製作に必要な材料を準備する。 製作工程表を作成する。 工程ごとに使用する工具や機器を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 製作工程表を作成させ、作業の見通しを持たせる。 能率的な作業手順を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 構想に基づいて、製作の計画を立てることができる力を身に付けている。(思)
	④作業手順を考えて製作しよう	A(2)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 切り代や削り代を見込んで、仕上がり寸法線と切断線をけがく。 材料を切断線に従って切断する。 寸法線に従って加工する。 加工後、検査・修正し、仮組み立てをする。 組み立てをする。組み立て後、検査・修正する。 素材や用途に合った表面処理をする。 <p>[他教科]</p> <ul style="list-style-type: none"> (小)図画工作：工作に表す活動 	<ul style="list-style-type: none"> 工具や機器の取り扱いでは、安全を徹底させる。 工具や機器の適切な使い方ができるように指導する。 材料の特性に応じた加工方法があることを知らせる。 ジグや測定具などを用いて、仕上がり寸法を測定しながら加工させる。 合理的な接合手順を考えさせる。 さしがねや直角定規を用いて検査を行わせる。 適切な修正を行わせる。 素地磨きが仕上がりに影響することを伝える。 製作品の使用目的や使用条件に応じて、表面処理を行わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全・適切な製作や検査・修正をすることができる技能を身に付けている。(知) ★他者と協働して、粘り強く取り組もうとしている。(態)
⑤問題解決の評価、改善・修正	A(2)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 材料と加工の技術による問題解決を振り返り、解決結果及び解決過程を評価し、改善・修正する方法について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決の評価の観点を決め、その評価の観点に基づいて評価させる。 製作品の品質 製作の工程 	<ul style="list-style-type: none"> 製作の過程や問題解決の結果を評価し、改善及び修正する力を身に付けている。(思) ★自らの問題解決を振り返り、よりよいものとなるように改善・修正しようとしている。(態) 	

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
21 ～ 22	1編 3章 社会の発展と材料と加工の技術	①材料と加工の技術の最適化	A(3)アイ ・自分の問題解決における最適化の場面を振り返り、社会の問題解決における最適化と比較する。 ・社会からの要求 ・安全性 ・環境への負荷 ・経済性	・社会における材料と加工の技術は、さまざまな制約条件の基で折り合いをつけ、効果が最も目的に合ったものになるように工夫されていることに気付かせる。 ・技術が生活の向上や産業の継承と発展に貢献していることに気付かせる。	・材料と加工の技術の概念について理解している。(知) ・材料と加工の技術の最適化について考えている。(思)
		②これからの材料と加工の技術	A(3)アイ [他教科] ・理科3年：自然環境の保全と科学技術の利用	・よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、技術を評価し、選択、管理・運用、改良・応用していくことの大切さについて考えさせる。	・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、材料と加工の技術を評価し、適切な選択、管理・運用、改良、応用について考えている。(思) ★よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、材料と加工の技術を工夫し創造しようとしている。(態)
23 ～ 28	4編 1章 情報の技術の原理・法則と仕組み	①情報の技術とは何だろう	D(1)アイ ・生活や社会、産業のさまざまな場面でコンピュータなどの情報の技術が利用されていることを知る。 ・コンピュータを構成するハードウェアとソフトウェアについてまとめる。 [他教科] ・(小)社会5年：我が国の情報と産業との関わり ・(小)理科6年：電気の利用 ・数学2年：データの分布の比較	・家や学校、工場などの場면을例示して、コンピュータなどの情報の技術が利用されていることを確認する。 ・身の回りにあるコンピュータの種類や形状、機能などをまとめさせる。 ・アナログ情報とデジタル情報の違いについて考えさせる。 ・情報の技術によって実現できることを挙げさせる。 ・小学校では、どのようなプログラミング体験を行ったか思い出させる。	・情報の表現や記録ができる仕組みを理解している。(知) ★主体的に情報の技術について考えようとしている。(態)。
		②情報のデジタル化	D(1)アイ ・コンピュータは全ての情報を数値化して処理していることを知る。 ・情報のデジタル化の方法をまとめる。 ・画像をデジタル化する方法やデータ量との関係についてまとめる。	・文字情報のデジタル化を例にデジタル化の方法を確認させる。 ・画像のデジタル化を例に、デジタル化とデータ量について確認させる。	・情報のデジタル化の仕組み、デジタル化の方法とデータ量の関係について理解している。(知)
		③情報通信ネットワークの仕組み	D(1)アイ D(2)ア ・情報通信ネットワークの仕組みについてまとめる。 ・情報通信ネットワークを使って、情報をやりとりする仕組みについて知る。	・家庭や学校におけるLANを例に、情報通信ネットワークを構成するために必要な機器や接続できる情報機器について説明する。 ・電子メールやSNSなど身近な例を取り上げ、情報通信ネットワークを使って、情報をやりとりする仕組みについて説明する。	・情報通信ネットワークの構成について理解している。(知) ・情報通信ネットワーク上で情報を利用する仕組みについて理解している。(知)
		④安全に利用するための情報モラル	D(1)アイ ・情報の特性について考え、情報が社会に与える影響について調べる。 ・望ましい情報社会のための態度について考える。 [家庭分野] ・消費生活・環境 [他教科] ・国語1年：情報の整理(引用の仕方) ・道徳：情報モラル	・デジタル化された情報のプラス面、マイナス面について考えさせ、マイナス面への対策として、どのような仕組みや態度が必要かを考えさせる。 ・著作権を含めた知的財産権の保護の必要性を伝え、知的な創造活動や発明のためにも、必要な権利であることを考えさせる。	・情報の特性を理解して、情報を安全に利用することができる技能を身に付けている。(知) ★情報が社会に与える影響を理解して、望ましい情報社会のために取るべき態度を身に付けようとしている。(態)

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
	⑤安全に利用するための情報セキュリティ	D(1)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティを実現するための3つの要素を知る。 <ul style="list-style-type: none"> 機密性 完全性 可用性 情報通信ネットワークにおけるサイバーセキュリティの重要性について考える。 セキュリティ対策のためのソフトウェアやシステムがあることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティに関するトラブルの例から、危険性について確認させる。 身の回りにあるコンピュータやスマートフォンなどのセキュリティ対策について調べさせる。 情報通信ネットワークへの不正侵入やデータの改ざんなどを防ぐサイバーセキュリティの重要性について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティの基本的な知識について理解している。(知) ★情報の安全を確保するために必要な判断や対応をする力を身に付けようとしている。(態)
	⑥情報の技術の工夫を読み取る	D(1)イ	<ul style="list-style-type: none"> 情報の技術に込められた問題解決の工夫について考える。 身近なシステムや自動化の技術の問題解決の工夫などから、「技術の見方・考え方」について気付いたことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の技術に込められた問題解決の工夫について、社会からの要求、安全性、環境への負荷、経済性などに着目させ、技術が最適化されてきたことに気付かせる。 利用者の視点だけではなく、開発者の視点でも考えられるように配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の技術に込められた工夫を読み取り、「技術の見方・考え方」に気付くことができる。(思)
29 ～ 35	4編2章 双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決				
	①双方向性のあるコンテンツのプログラミングとは何だろう	D(2)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 双方向性のあるコンテンツにはどのようなものがあるか調べる。 双方向性のあるコンテンツの基本的な仕組みについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> コンテンツに利用されているメディアの例とその特徴を整理させる。 情報処理の手順を表現する図として、アクティビティ図やフローチャートについて説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 双方向性のあるコンテンツの基本的な仕組みを理解している。(知) ★主体的に情報の技術について考え、理解しようとしている。(態)
	②問題を発見し、課題を設定しよう	D(2)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 双方向性のあるコンテンツのプログラミングによって解決できる問題を見つける。 発見した問題を解決するための課題を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「技術の見方・考え方」を働かせて問題を見いだすことができるように配慮する。 身近なコンテンツが解決している問題を参考に、必要な機能、対象者、使用する環境、使用時の安全性などについても考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「技術の見方・考え方」を働かせて、問題を発見し、自分なりの課題を設定する力を身に付けている。(思)
	③コンテンツを構想しよう	D(2)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 問題を解決するためのコンテンツに必要な情報を収集し、解決策を具体化する。 <ul style="list-style-type: none"> 構想の具体化 情報処理の手順の整理 必要な機能の整理 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の立場を意識し、メディアの特徴を生かして、利用しやすい構成になるように考えさせる。 アクティビティ図を用いることで、複数の情報処理の手順を統合して全体の構想を確認できることを伝える。 グループでコンテンツを制作する場合は、役割分担と制作計画を立てさせる。 制作環境や制作時間を考慮させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 使用するメディアを複合する方法とその効果的な利用方法を構想する力を身に付けている。(思) ★自分なりの新しい考え方や捉え方によって、知的財産を創造するとともに、他者のアイディアを尊重し、それらを保護・活用しようとしている。(態)
④コンテンツのプログラムを制作しよう	D(2)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 安全で適切なプログラムの制作と動作の確認、デバッグを行う。 使用する人のことを考えてプログラムを制作する。 <p>[他教科]</p> <ul style="list-style-type: none"> (小) 算数5年：正多角形をかく手順を考えよう(プログラミング体験) 美術：表現(コンピュータにおける映像メディアの活用) 	<ul style="list-style-type: none"> 文字、音声、静止画、動画などコンテンツの制作に必要な素材を準備させる。 アクティビティ図を確認しながらプログラムを制作させる。 完成したプログラムを実行して、目的の動作をしているか確かめさせる。異なる場合は理由を考えさせ、デバッグさせる。 著作権や個人情報の扱いなど情報モラルの重要性を考えながら制作させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全で適切なプログラムの制作と動作の確認、デバッグができる技能を身に付けている。(知) 情報処理の手順を具体化する力を身に付けている。(思) ★他者と協働して、粘り強く取り組もうとしている。(態) 	

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
	⑤ 問題解決の評価，改善・修正	D(2) アイ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決を振り返り，解決結果及び解決過程を評価し，改善・修正する方法について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題解決の評価の観点を決め，その評価の観点に基づいて評価させる。 〔見やすさ ・ 操作のしやすさ ・ 制作工程が適切か ・ 誤りが少ないか ・ 著作権への配慮 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンテンツのプログラムの制作の過程や問題解決の結果を評価し，改善及び修正する力を身に付けている。(思) ★自らの問題解決を振り返り，よりよいものとなるように改善・修正しようとしている。(態)

■ 2年

* (知) …知識・技能 (思) …思考・判断・表現 (態) …主体的に学習に取り組む態度
 *★…「主体的に学習に取り組む態度」は、複数の学習内容にまたがる長期的な評価規準となる。

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
1 ～ 12	2 編 1 章 生物育成の技術の原理・法則と仕組み	①生物育成の技術とは何だろう	B(1)アイ <ul style="list-style-type: none"> 生物育成の技術の目的を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・食料の生産 ・材料・燃料の生産 ・健康・医療など ・自然環境の保全 生物育成の技術についてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・育成環境を調節する技術 ・生物の成長を管理する技術 ・生物の特徴を改良する技術 地域の特産物を調べ、どのような技術が用いられているか調べ、まとめる。 [他教科] ・(小) 生活：動植物の飼育・栽培 ・(小) 社会5年：我が国の農業や水産業における食料生産	<ul style="list-style-type: none"> 生物育成の技術は、食料の生産だけではなく、材料・燃料の生産、健康・医療への利用、自然環境の保全などにも用いられていることを知らせる。 生物育成の技術について、作物、動物、水産生物の育成とそれぞれ関連させて説明する。 地域の特産物の栽培（飼育）では、どのように技術が最適化されているか考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生物を育てる技術の目的について理解している。(知) ★主体的に生物育成の技術について考えようとしている。(態)
		②作物の育成環境を調節する技術	B(1)アイ <ul style="list-style-type: none"> 作物の育成環境を調節する技術について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・光の管理 ・温度の管理 ・水分の管理 ・土の管理 など スプラウトの育成を行い、育成環境を調節する技術を体験する。 [他教科] ・(小) 理科3年：植物の成長と体のづくり ・(小) 理科5年：植物の発芽、成長、結実 ・理科2年：植物の体のつくりと働き ・理科2年：光合成の仕組み	<ul style="list-style-type: none"> 育成環境を調節する技術を用いることで、これまで栽培できなかった地域で栽培したり、収穫時期を調整したりできるようになることを伝える。 スプラウトの育成では、育成の条件を変えることで、どのような成長の変化があるか比較を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・光（照度） ・光（日長時間） ・温度 ・水分 ・養分 	<ul style="list-style-type: none"> 作物の育成環境を調節する技術について理解している。(知) 育成環境を工夫してスプラウトを育成することができる技能を身に付けている。(知)
		③作物の成長を管理する技術	B(1)アイ <ul style="list-style-type: none"> 作物の成長を管理する技術について調べる。 作物の成長を管理する技術とその目的についてまとめる。 [他教科] ・(小) 理科3年：植物の成長と体のづくり ・(小) 理科5年：植物の発芽、成長、結実 ・理科2年：植物の体のつくりと働き ・理科3年：生殖	<ul style="list-style-type: none"> 健康に育成するために、生育に適した時期や生育状況を見ながら、目的に応じて作物やその周辺に手を加えることの必要性を伝える。(例) <ul style="list-style-type: none"> ・種まき…生育場所の提供 ・間引き…通風・日当たり改善、苗の選択 ・摘芽…栄養管理 ・追肥…栄養管理、品質向上、収量増大 など 	<ul style="list-style-type: none"> 作物の成長を管理する技術について理解している。(知)
		④動物を育てる技術	B(1)アイ <ul style="list-style-type: none"> 人と動物との関わりについて知る。 家畜としての動物の利用方法を調べる。 動物を健康に育てるための技術を調べる。 [他教科] ・(小) 生活：動植物の飼育・栽培 ・理科2年：動物の体のつくりと働き ・道徳：生命の尊さ	<ul style="list-style-type: none"> 動物を育てるための育成環境を調節する技術や成長を管理する技術について調べさせ、植物との共通点や違いに気付かせる。 動物を育てる技術については、痛みやストレスを減らすという動物福祉の視点を取り上げる。 生産者の話などから、技術に込められた問題解決の工夫を読み取らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 動物を健康に育てるための技術について理解している。(知)

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
2 編2 章 生物育成の技術による問題解決	⑤水産生物を育てる技術	B(1)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 水産生物を安定的に供給するための養殖の技術について知る。 水産生物を健康に育てるための技術を調べる。 <p>[他教科]</p> <ul style="list-style-type: none"> (小)生活：動植物の飼育・栽培 	<ul style="list-style-type: none"> 水産生物を育てるための育成環境を調節する技術や成長を管理する技術について調べさせ、植物や動物との共通点や違いに気付かせる。 生産者の話などから、技術に込められた問題解決の工夫を読み取らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 水産生物を安定的に供給するための養殖の技術について理解している。(知)
	⑥生物育成の技術の工夫を読み取る	B(1)イ	<ul style="list-style-type: none"> 生物育成の技術に込められた問題解決の工夫について考える。 食料の生産における問題解決の工夫などから、「技術の見方・考え方」について気付いたことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生物育成の技術に込められた問題解決の工夫について、社会からの要求、安全性、環境への負荷、経済性などに着目させ、技術が最適化されてきたことに気付かせる。 消費者の視点だけではなく、生産者の視点でも考えられるように配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生物育成の技術に込められた工夫を読み取り、「技術の見方・考え方」に気付くことができる。(思)
	①問題を発見し、課題を設定しよう	B(2)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 家庭、学校、地域、社会における生物育成の技術によって解決できる問題を見つける。 発見した問題を解決するための課題を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「技術の見方・考え方」を働かせて問題を見いだすことができるように配慮する。 これまでの栽培経験や先輩の栽培記録の確認、地域の生産者へのインタビューなどを行うことも考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「技術の見方・考え方」を働かせて、問題を発見し、自分なりの課題を設定する力を身に付けている。(思)
②生物の育成計画を立てよう	B(2)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 生物を育てる目的を考え、生物の成長に合わせた育成計画を立てる。 <p>[販売用、自家消費用、食用、観賞用、加工用、飼料用 など (作物の栽培の場合)]</p> <ul style="list-style-type: none"> 作物やその品種に応じた育て方を調べ、栽培計画表にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が育てる生物に適した育成計画表を作成させる。 育成に必要な条件や管理作業の時期、作業内容などを調べさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 育成する作物に適した環境条件について考えている。(思) 育成する目的に合わせて、栽培計画を立てる力を身に付けている。(思) ★自分なりの新しい考え方や捉え方によって、知的財産を創造するとともに、他者のアイデアを尊重し、それらを保護・活用しようとしている。(態) 	
③成長段階に合わせて適切に育成しよう	B(2)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 安全に配慮し、成長の状態に合わせて、適切な管理作業を行う。 <p>(ミニトマトの場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> 定植 支柱立て・誘引 かん水 元肥・追肥 摘芽・摘芯・受粉 健康管理、病害虫駆除 収穫 <ul style="list-style-type: none"> 管理作業の内容を、栽培記録表にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作物の栽培は、年間を通して適切な時期に実施する。 収穫量を増やすことや希望する時期に収穫することができるように品種を選択し管理作業を行わせる。 育成計画を倫理観(病害虫の駆除や予防のために農薬を使用したかどうかの表示や消費者に対する安全や環境への負荷の配慮)や知的財産の視点からまとめさせる。 ミニトマトの栽培は年間の適切な時期に実施するため、1単位時間を通して管理作業を行うのではなく、例えば、授業時間の中で15分以内などと決めておき、残り時間は育成記録をつけさせたり、動物や水産生物の育成についての原理・法則について扱ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 植物の成長の状態に合わせて、適切な管理作業を行う技能を身に付けている。(知) ★他者と協働して、粘り強く取り組もうとしている。(態) 	

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点	
	④問題解決の評価、改善・修正	B(2)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 生物育成の技術による問題解決を振り返り、解決結果及び解決過程を評価し、改善・修正する方法について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決の評価の観点を決め、その評価の観点に基づいて評価させる。 <ul style="list-style-type: none"> 品質 収量 安全性 環境への配慮 費用 育成計画や管理作業の振り返り など 	<ul style="list-style-type: none"> 育成の過程や問題解決の結果を評価し、改善及び修正する力を身に付けている。(思) ★自らの問題解決を振り返り、よりよいものとなるように改善・修正しようとしている。(態) 	
13 ～ 14	2編3章 社会の発展と生物育成の技術	①生物育成の技術の最適化	B(3)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 自分の問題解決における最適化の場面を振り返り、社会の問題解決における最適化と比較する。 <ul style="list-style-type: none"> 社会からの要求 <ul style="list-style-type: none"> 安全性 環境への負荷 経済性 生物育成の技術のプラス面、マイナス面について考え、これからどのように技術の最適化を図っていくとよいかをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会における生物育成の技術は、さまざまな制約条件の基で折り合いを付け、効果が最も目的に合ったものになるように工夫されていることに気付かせる。 生物育成の技術のプラス面、マイナス面を考えさせる際は、生産者の立場と消費者の立場の両方の立場から考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生物育成の技術の概念について理解している。(知) 生物育成の技術の最適化について考えている。(思)
		②これからの生物育成の技術	B(3)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な社会の構築のために、これからの生物育成の技術について考える。 <p>[他教科]</p> <ul style="list-style-type: none"> 理科3年：生物と環境 理科3年：自然環境の保全と科学技術の利用 道徳：郷土の伝統と文化の尊重 	<ul style="list-style-type: none"> よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、技術を評価し、選択、管理・運用、改良・応用していくことの大切さについて考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生物育成の技術を評価し、適切な選択、管理・運用、改良、応用について考えている。(思) ★よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生物育成の技術を工夫し創造しようとしている。(態)
15 ～ 24	3編1章 エネルギー変換の技術の原理・法則と仕組み	①エネルギー変換の技術とは何だろう	C(1)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 生活や社会の中で利用されているエネルギー変換の技術について調べる。 エネルギー変換効率について知る。 <p>[家庭分野]</p> <ul style="list-style-type: none"> 消費生活・環境 <p>[他教科]</p> <ul style="list-style-type: none"> (小) 理科6年：電気の利用 社会(地理)：資源・エネルギーと産業 理科2年：電気エネルギー 理科3年：エネルギーと物質 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの製品のエネルギー変換の流れを考えさせる。 身の回りの製品のエネルギー損失に気付かせる。 エネルギー変換効率を高めることは、環境への負荷を減らすことにつながることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活や社会の中で利用されているエネルギー変換の技術について理解している。(知) ★主体的にエネルギー変換の技術について考えようとしている。(態)
		②発電の仕組みと特徴	C(1)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 発電の仕組みと特徴についてまとめる。 さまざまな発電方法のプラス面、マイナス面について調べ、適切な発電構成割合について自分なりに考える。 <p>[他教科]</p> <ul style="list-style-type: none"> (小) 理科5年：電流がつくる磁力 (小) 理科6年：電気の利用 理科2年：電流、電流と磁界 理科2年：電磁誘導と発電 理科3年：自然環境の保全と科学技術の利用 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな発電方式の特徴、エネルギー変換効率、二酸化炭素排出量、発電にかかる費用などを比較しながら、適切な発電方法について自分なりに考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 発電の仕組みと特徴について理解している。(知) さまざまな発電方法に込められた技術の工夫について考えている。(思)

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
	③電気を供給する仕組み	C(1)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 電源の種類と特徴についてまとめる。 送電・配電について調べる。 [他教科] <ul style="list-style-type: none"> 理科2年：電流とその利用 理科3年：化学変化と電池 	<ul style="list-style-type: none"> コンセントや電池を例に、電源の種類を調べさせる。 発電所からの送電・配電の仕組みについて調べさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 電源の種類と特徴や、送電・配電の仕組みを理解している。(知) 送電・配電の技術の工夫について考えている。(思)
	④電気回路について考えよう	C(1)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 電気エネルギーを利用する仕組みを調べる。 電気回路について、電気用図記号を用いた回路図で表す。 [他教科] <ul style="list-style-type: none"> (小) 理科3年：電気の通り道 (小) 理科4年：電流の働き (小) 理科6年：電気の利用 理科2年：電流 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにある電気機器を調べさせ、電気エネルギーを利用する仕組みをまとめさせる。 身の回りの機器の回路を調べさせ、回路図にまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 電気回路の仕組みについて理解している。(知) 簡単な電気回路を回路図で表すことができる技能を身に付けている。(知)
	⑤電気機器を安全に使用するための技術	C(1)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 電気を安全に使うための技術の工夫について調べ、まとめる。 [・漏電 ・感電] <ul style="list-style-type: none"> 電気機器の安全な使い方について考える。 [家庭分野] <ul style="list-style-type: none"> 消費生活・環境 [他教科] <ul style="list-style-type: none"> 理科2年：電流 	<ul style="list-style-type: none"> 電気機器の構造や安全に関する表示を観察して、その意味を調べさせ、適切な使用方法についてまとめさせる。 電気による事故を防ぐ方法を具体的にまとめさせる。 漏電・感電の危険性について知らせ、電気機器を安全に使用するための技術の工夫についてまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 電気機器の安全な使い方について理解している。(知) 電気による事故を防ぐ方法について考えている。(思)
	⑥運動エネルギーへの変換と利用	C(1)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 機械が運動を伝える仕組みについて調べる。 機械の運動の種類とエネルギー変換についてまとめる。 [・直線運動 ・回転運動 ・揺動運動] [他教科] <ul style="list-style-type: none"> (小) 理科6年：てこの規則性 理科3年：力学的エネルギー 	<ul style="list-style-type: none"> 自転車や身の回りの機器などに使用されている運動を伝える仕組みや部品を調べさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 機械が運動を伝える仕組みについて理解している。(知) 運動の種類とエネルギー変換について理解している。(知)
	⑦回転運動を伝える仕組み	C(1)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 回転運動を伝える仕組みの特徴と用途を調べる。 回転速度と回転力の関係を調べる。 [他教科] <ul style="list-style-type: none"> 理科3年：運動の規則性 	<ul style="list-style-type: none"> 自転車を例に、回転運動を伝える仕組みを調べ、回転速度と回転力の関係についてまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 回転運動を伝える仕組みの特徴と用途を理解している。(知)
	⑧機械が動く仕組み	C(1)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 往復直線運動や揺動運動などを伝えるリンク機構やカム機構の仕組みを調べる。 流体を用いて動く機械や熱エネルギーで動く機械を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自転車や身の回りの機器などに使われている往復直線運動や揺動運動を伝えるためのリンク機構やカム機構の仕組みと利用例を調べさせる。 油圧シリンダやパワーアシストロボットなどの流体を用いて動く機械や、蒸気機関などの熱エネルギーで動く機械の仕組みについて調べさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> リンク機構やカム機構について理解している。(知) 熱や水、空気などの流体を用いたエネルギー変換の特性について理解している。(知)

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点	
	⑨機械の共通部品と保守点検の大切さ	C(1)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 機械の共通部品について知る。 機械を安全に利用するために保守点検が必要であることを知る。 身近な機械の保守点検をする。 <p>[他教科]</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健体育：交通事故などによる傷害の防止 	<ul style="list-style-type: none"> 機械の共通部品があることで作業効率が上がることに気付かせる。 飛行機や自転車の点検などから、保守点検（メンテナンス）の大切さに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 機械の共通部品と保守点検の大切さについて理解している。（知） 	
	⑩エネルギー変換の技術の工夫を読み取ろう	C(1)イ	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー変換の技術に込められた問題解決の工夫について考える。 身近な製品の問題解決の工夫などから、「技術の見方・考え方」について気付いたことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー変換の技術に込められた問題解決の工夫について、社会からの要求、安全性、環境への負荷、経済性などに着目させ、技術が最適化されてきたことに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー変換の技術に込められた工夫を読み取り、「技術の見方・考え方」に気付くことができる。（思） 	
25 ～ 33	3編2章 エネルギー変換の技術による問題解決	①問題を発見し、課題を設定しよう	C(2)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 生活や社会における光、熱、動力などのエネルギー変換の技術によって解決できる問題を見つける。 発見した問題を解決するための課題を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「技術の見方・考え方」を働かせて問題を見いだすことができるように配慮する。 「あったらいいな」「不便だな」の視点で問題を見つけさせる。 問題発見・課題設定のために、5W1Hを用いて整理させる。 <p>[いつ ・ 誰が ・ どこで 何を ・ 何のために どのように]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「技術の見方・考え方」を働かせて、問題を発見し、自分なりの課題を設定する力を身に付けている。（思）
		②電気回路を設計・製作しよう	C(2)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 設計要素を検討する。 <p>[電源 制御 負荷]</p> <ul style="list-style-type: none"> 構想をまとめ、製作に必要な図を描く。 プロトタイプ（試作）、シミュレーションを行う。 目的の電気回路が決まったら、安全に配慮し、製作、実装、点検・調整を行う。 <p>[他教科]</p> <ul style="list-style-type: none"> (小) 理科3年：電気の通り道 (小) 理科4年：電流の働き (小) 理科6年：電気の利用 理科2年：電流 	<ul style="list-style-type: none"> 使用目的・使用条件に合わせて設計要素を検討させる。 機能面だけでなく、安全性や環境への負荷についても考えさせる。 適切な工具の使い方を指導し、製作、実装、点検・調整を行わせる。 知的財産を創造、保護及び活用することの大切さや技術に関わる倫理観について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 構想に基づいて設計し、電気回路の回路図や組立図にまとめることができる技能を身に付けている。（知） 構想に基づいて、製作の計画を立てる力を身に付けている。（思） ★自分なりの新しい考え方や捉え方によって、知的財産を創造するとともに、他者のアイデアを尊重し、それらを保護・活用しようとしている。（態） ★他者と協働して、粘り強く取り組もうとしている。（態）
		③機構モデルを設計・製作しよう	C(2)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 設計要素を検討する。 <p>[動力源 運動を伝える仕組み 仕事をする仕組み]</p> <ul style="list-style-type: none"> 構想をまとめ、製作に必要な図を描く。 プロトタイプ（試作）、シミュレーションを行う。 目的の機構の動きが決まったら、安全に配慮し、製作、実装、点検・調整を行う。 <p>[他教科]</p> <ul style="list-style-type: none"> (小) 理科6年：てこの規則性 理科3年：力学的エネルギー 理科3年：運動の規則性 	<ul style="list-style-type: none"> 使用目的・使用条件に合わせて設計要素を検討させる。 機能面だけでなく、安全性や環境への負荷についても考えさせる。 適切な工具の使い方を指導し、製作、実装、点検・調整を行わせる。 知的財産を創造、保護及び活用することの大切さや技術に関わる倫理観について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 構想に基づいて設計し、機構モデルの回路図や組立図にまとめることができる技能を身に付けている。（知） 構想に基づいて、製作の計画を立てる力を身に付けている。（思） ★自分なりの新しい考え方や捉え方によって、知的財産を創造するとともに、他者のアイデアを尊重し、それらを保護・活用しようとしている。（態） ★他者と協働して、粘り強く取り組もうとしている。（態）

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
	④ 問題解決の評価、改善・修正	C(2) アイ	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー変換の技術による問題解決を振り返り、解決結果及び解決過程を評価し、改善・修正する方法について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決の評価の観点を決め、その評価の観点に基づいて評価させる。 機能 利便性（使いやすさ） 安全性 環境への配慮 費用 など 	<ul style="list-style-type: none"> 製作の過程や問題解決の結果を評価し、改善及び修正する力を身に付けている。（思） ★自らの問題解決を振り返り、よりよいものとなるように改善・修正しようとしている。（態）
34 ～ 35	① エネルギー変換の技術の最適化	C(3) アイ	<ul style="list-style-type: none"> 自分の問題解決における最適化の場面を振り返り、社会の問題解決における最適化と比較する。 社会からの要求 <ul style="list-style-type: none"> 安全性 環境への負荷 経済性 エネルギー変換の技術のプラス面、マイナス面について考え、これからどのように技術の最適化を図っていくとよいかをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会におけるエネルギー変換の技術は、さまざまな制約条件の基で折り合いをつけ、効果が最も目的に合ったものになるように工夫されていることに気付かせる。 エネルギー変換の技術は、生活や社会を豊かにする光の側面がある一方で、環境への負荷や事故の危険性などの影の側面があることも伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー変換の技術の概念について理解している。（知） エネルギー変換の技術の最適化について考えている。（思）
	② これからのエネルギー変換の技術	C(3) アイ	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な社会の構築のために、これからのエネルギー変換の技術について考える。 <p>[他教科]</p> <ul style="list-style-type: none"> 理科3年：自然環境の保全と科学技術の利用 	<ul style="list-style-type: none"> よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、技術の評価し、選択、管理・運用、改良・応用していくことの大切さについて考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、エネルギー変換の技術の評価し、適切な選択、管理・運用、改良、応用について考えている。（思） ★よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、エネルギー変換の技術を工夫し創造しようとしている。（態）

■ 3年

* (知) …知識・技能 (思) …思考・判断・表現 (態) …主体的に学習に取り組む態度
 * ★…「主体的に学習に取り組む態度」は、複数の学習内容にまたがる長期的な評価規準となる。

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
1 5 14	4編 3章 計測・制御のプログラミングによる問題解決 ★統合的な問題解決	①計測・制御システムとは何だろう	D(3)アイ <ul style="list-style-type: none"> 身の回りにおける計測・制御システムを調べる。 計測・制御システムにおけるプログラムの役割を調べる。 計測・制御システムの基本的な構成と情報の流れを調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 計測・制御システムには、コンピュータのほかに、センサ、仕事を行う部分、インタフェースが必要なことを知らせる。 自動運転技術などの計測・制御システムを例に、情報処理の手順を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 計測・制御システムの基本的な構成を理解している。(知) 計測・制御システムにおけるプログラムの役割を理解している。(知) ★主体的に情報の技術について考えようとしている。(態)
		②問題を発見し、課題を設定しよう	D(3)アイ <ul style="list-style-type: none"> 計測・制御のプログラミングによって解決できる問題を見つける。 発見した問題を解決するための課題を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「技術の見方・考え方」を働かせて問題を見いだすことができるように配慮する。 社会からの要求、使用者の安全、利便性などの視点から実現したい自動化、システム化を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「技術の見方・考え方」を働かせて、問題を発見し、自分なりの課題を設定する力を身に付けている。(思)
		③計測・制御システムを構想しよう	D(3)アイ <ul style="list-style-type: none"> 問題を解決するための計測・制御システムに必要な情報を収集し、解決策を具体化する。 センサと仕事を行う部分の選択 計測・制御システムの構成の整理 情報処理の手順の整理 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の「技術の見方・考え方」を働かせて、解決策を具体化できるように支援する。 フローチャートやアクティビティ図などを用いて情報処理の手順を整理させ、計測・制御システムを構想させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 入出力されるデータの流れを基に、計測・制御システムを構想する力を身に付けている。(思) ★自分なりの新しい考え方や捉え方によって、知的財産を創造するとともに、他者のアイデアを尊重し、それらを保護・活用しようとしている。(態)
		④計測・制御システムのプログラムを制作しよう	D(3)アイ <ul style="list-style-type: none"> 安全で適切なプログラムの制作と動作の確認、デバッグを行う。 エネルギー変換の技術による問題解決の学習を生かして、自動化・システム化が実現するプログラムを制作する。 <p>[他教科]</p> <ul style="list-style-type: none"> (小) 理科6年：電気の利用（プログラミング体験） 	<ul style="list-style-type: none"> フローチャートやアクティビティ図を確認しながらプログラムを制作させる。 完成したプログラムを実行して、目的の動作をしているか確かめさせる。異なる場合は理由を考えさせ、デバッグさせる。 実際に動作させた結果を踏まえ、より効率的で確実な動作をするようにプログラムを改良させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全で適切なプログラムの制作と動作の確認、デバッグができる技能を身に付けている。(知) 情報処理の手順を具体化する力を身に付けている。(思) ★他者と協働して、粘り強く取り組もうとしている。(態)
		⑤問題解決の評価、改善・修正	D(3)アイ <ul style="list-style-type: none"> 計測・制御のプログラミングによる問題解決を振り返り、解決結果及び解決過程を評価し、改善・修正する方法について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決の評価の観点を決め、その評価の観点に基づいて評価させる。 安全性 環境への配慮 正確性 使いやすさ 制作工程が適切か 誤りが少ないか 著作権への配慮 など 	<ul style="list-style-type: none"> 計測・制御システムの制作の過程や問題解決の結果を評価し、改善及び修正する方法について考えている。(思) ★自らの問題解決を振り返り、よりよいものとなるように改善・修正しようとしている。(態)

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
15 ～ 16	4編 4章 社会の発展と情報の技術	①情報の技術の最適化	D(4) アイ <ul style="list-style-type: none"> 自分の問題解決における最適化の場面を振り返り、社会の問題解決における最適化と比較する。 <ul style="list-style-type: none"> 社会からの要求 安全性 環境への負荷 経済性 情報の技術のプラス面、マイナス面について考え、これからどのように技術の最適化を図っていくとよいかをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会における情報の技術は、さまざまな制約条件の基で折り合いを付け、効果が最も目的に合ったものになるように工夫されていることに気付かせる。 情報の技術は、生活や社会を豊かにする光の側面がある一方で、不正アクセスなどの危険性のような影の側面があることも伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の技術の概念について理解している。(知) 情報の技術の最適化について考えている。(思)
		②これからの情報の技術	D(4) アイ <ul style="list-style-type: none"> 持続可能な社会の構築のために、これからの情報の技術について考える。 [他教科] <ul style="list-style-type: none"> 理科3年：自然環境の保全と科学技術の利用 	<ul style="list-style-type: none"> よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、技術を評価し、選択、管理・運用、改良・応用していくことの大切さについて考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、情報の技術を評価し、適切な選択、管理・運用、改良、応用について考えている。(思) ★よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、情報の技術を工夫し創造しようとしている。(態)
17 ～ 17.5	技術分野の学習を終えて	学んだことを社会に生かす A(3) B(3) C(3) D(4)	<ul style="list-style-type: none"> 3学年間の技術の学習内容を振り返り、これから技術とどのように関わっていきたいかを考えてまとめる。 地球環境や将来の世代のための技術について考え、10年後、50年後の未来を予測する。 	<ul style="list-style-type: none"> 3学年間で学んだ材料と加工、生物育成、エネルギー変換、情報の技術について振り返らせる。また、将来に向けて自分なりの技術の活用方法を考えさせ、10年後、50年後の未来像とともに発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、材料と加工、生物育成、エネルギー変換、情報の技術を工夫し創造しようとしている。(態)

「新しい技術・家庭 家庭分野」 年間指導計画作成資料

※題材ごとの配当時数，主な学習活動，評価規準などは，今後変更になる可能性があります。ご了承ください。

東京書籍

指導計画例① 自立と共生を目指して、衣食住の生活から始まり家庭・地域・社会へと視野を広げる例

この例は、自分から家族、家族から地域・社会へと段階的に視野を広げ、自分や家族のために進んでよりよい生活を工夫していくことをねらいとしている。第 1 学年から第 2 学年では、自分の生活を見つめ直し、生活の自立を目指して、内容 B を履修させる。その後、関連を図りながら内容 C を履修させる。第 3 学年では、家族や地域のことを考えて、よりよい生活を創造することを目指して、内容 A を履修させる。選択必修の生活の課題と実践は、第 1 学年末にエコクッキング、第 3 学年に余り布を用いた幼児の小物作りを設定して、問題解決的な学習や主体的・対話的で深い学びが繰り返し行えるようにしている。

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
第 1 学年	項目	A(1)		B(1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴			B(2) 中学生に必要な栄養を満たす食事					B(3) 日常食の調理と地域の食文化 C(2) 消費者の権利と責任 [環境]										B(7), C(3) 生活の課題と実践														
	時数	2		4			7					18										4														
	学習内容	ガイダンス(※)		<ul style="list-style-type: none"> ・食事が果たす役割 ・健康に良い食習慣 ・栄養素の種類と働き ・中学生の栄養の特徴 			<ul style="list-style-type: none"> ・食品に含まれる栄養素 ・中学生に必要な栄養素 ・中学生の 1 日に必要な食品の種類と概量 ・中学生の 1 日分の献立の工夫 					<ul style="list-style-type: none"> ・食品の選択と購入 ・生鮮食品と加工食品 ・食品の保存と食中毒の防止 ・日常食の調理 (野菜, 肉, 魚) ・地域の食文化 ・地域の食材を生かした和食の調理 ・持続可能な食生活を目指して 										食生活, 消費・環境の課題と実践 (例) エコクッキング														
第 2 学年	項目	B(4) 衣服の選択と手入れ					B(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作 C(2) 消費者の権利と責任 [環境]				B(6) 住居の機能と安全な住まい方 C(2) 消費者の権利と責任 [環境]				C(1) 金銭の管理と購入			C(2) 消費者の権利と責任		A(1) 家族・家庭と地域																
	時数	8					7				8				6			3		3																
	学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の働き ・目的に応じた着用と個性を生かす服装 ・衣服の計画的な活用 ・衣服の選択 ・衣服の手入れ 					<ul style="list-style-type: none"> ・生活を豊かにする工夫 ・製作の計画 ・布を用いた物の製作 (リフォーム・リメイク) ・持続可能な衣生活を目指して 				<ul style="list-style-type: none"> ・住まいの役割 ・家族の生活と住空間との関わり ・日本の住まいと住まい方 ・健康で快適な住まい ・安全・安心な住まい (家庭内事故, 災害への対策) ・持続可能な住生活を目指して 				<ul style="list-style-type: none"> ・消費者としての自覚 ・購入方法と支払い方法 ・計画的な金銭の管理 ・消費者トラブル ・商品の選択 (意思決定のプロセス) 			<ul style="list-style-type: none"> ・消費者の権利と責任 ・省エネルギーと持続可能な社会 ・持続可能な消費生活を目指して 		<ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭の機能 ・中学生としての自立 ・家庭生活と地域との関わり 																
第 3 学年	項目	A(2) 幼児の生活と家族			☆ A(4), B(7), C(3)		A(2) 幼児の生活と家族			A(3) 家族・家庭や地域との関わり		A, B, C																								
	時数	6			2		6			3		0.5																								
	学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・幼い頃の振り返り ・幼児の体の発達 ・幼児の心の発達 ・幼児の生活習慣の習得 ・幼児の生活と遊び 			(例) 余り布で幼児の小物作り		<ul style="list-style-type: none"> ・幼児との関わり方の工夫 (幼児との触れ合い体験) ・子どもにとっての家族 			<ul style="list-style-type: none"> ・家族の協力と家族関係 ・高齢者との関わり ・地域での協働を目指して 		学習を終えて																								
		指導時数		A	B 食	B 衣	B 住	C	課題実践	計																										
				20.5	29	15	8	9	6	87.5																										

☆生活の課題と実践

(※)「家庭分野のガイダンス」では、自分の成長の振り返り、小学校家庭科の学習内容の振り返り、3 年間間の学習内容を見通す内容、家族・家庭の基本的な機能と学習内容や見方・考え方とのつながりについて指導し、これからの学習に期待と意欲を持たせる。

■ 1年

* (知) …知識・技能 (思) …思考・判断・表現 (態) …主体的に学習に取り組む態度

* [小] …小学校家庭科での学習内容

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
1 ～ 2	家庭分野の ガイダンス	A(1) ア	<ul style="list-style-type: none"> 自分の成長を振り返り、自分の成長や生活は家族やそれに関わる人々に支えられていることに気付く。 これまでの家庭生活や小学校家庭科の学習内容を振り返る。 中学校での学習内容に興味を持ち、3学年間の学習の見通しを持つ。 各内容と家族・家庭の基本的な機能が関連していることに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校で家庭分野を学ぶ目的や意義を踏まえて、A～Cの3つの内容について具体的に説明する。 家庭生活を振り返るときには、プライバシーに十分配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の成長と家族や家庭生活との関わりについて理解している。(知) 家族・家庭の基本的な機能について理解している。(知) 家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付いている。(知)
3 ～ 6	1編1章 食事の役割と中学生の栄養の特徴	① どうして食事をするのだろう	<ul style="list-style-type: none"> 食事の役割についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で食事が果たしている役割を考えさせ、食事の役割をまとめさせる。 [小]食事の役割	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で食事が果たす役割について理解している。(知)
		② 私たちの食生活	<ul style="list-style-type: none"> 食生活を点検し、課題を見付ける。 心身の健康に良い食習慣について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな視点から食生活を振り返らせ、自分の課題を考えさせる。 健康に良い食習慣を身に付け、日常生活で実践することの大切さに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康に良い食習慣について理解している。(知) 自分の食習慣について問題を見いだして課題を設定している。(思) 自分の食習慣について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。(態)
		③ 栄養素ってなんだろう	<ul style="list-style-type: none"> 栄養素の種類と働きについてまとめる。 体内での水の働きをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 栄養素の体内での主な3つの働きと五大栄養素を関連させてまとめさせる。 中学生の平均体重を示し、水分の割合を具体的にイメージさせ、生命維持のために必要な成分であることに気付かせる。 [小]五大栄養素	<ul style="list-style-type: none"> 栄養素の種類と働きについて理解している。(知)
		④ 中学生に必要な栄養	<ul style="list-style-type: none"> 中学生に必要な栄養の特徴について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 食事摂取基準から、中学生の時期の栄養の特徴を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生に必要な栄養の特徴について理解している。(知)
7 ～ 13	1編2章 中学生に必要な栄養を満たす食事	B(2) ア	<ul style="list-style-type: none"> 食品成分表を使い、身近な食品の栄養的特徴を調べる。 食品の可食部100gと1回に食べやすい量に含まれるカルシウムの量の違いを把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 食品に含まれる栄養素から食品名を当てるクイズを出題するなど、食品の栄養的特質について関心を持たせる。 1回に食べやすい食品に含まれるカルシウムの量を知らせることにより、いろいろな食品を組み合わせる必要性があることを実感させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な食品の栄養的特質について理解している。(知)

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点	
	②何をどのくらい食べればよいか	B(2) ア	<ul style="list-style-type: none"> 身近な食品を栄養的な特徴により6つの食品群に分類する。 食品群別摂取量の目安と1日に必要な食品の種類と概量を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 食品群の分類については、栄養素の体内での主な3つの働きとの系統性を考慮して扱う。 実際に、献立に使われている食品を用意し、それらを食品群に分類したり、計量したりする活動を通して、1日に必要な食品の概量を実感させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生の1日に必要な食品の種類と概量について理解している。(知) 	
	③バランスの良い献立作り	B(2) アイ	<ul style="list-style-type: none"> 中学生に必要な栄養を満たす1日分の献立を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校での学習を振り返り、1食分の献立の例などを挙げさせるようにする。 主に栄養素を考えた食品の組み合わせを中心に献立を考えるよう指導する。 献立を考える際には、嗜好、費用、調理時間、季節などの点からも検討する必要があることを伝える。 <p>[小] 1食分の献立</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1日分の献立作成の方法について理解している。(知) 1日分の献立について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。(思) 1日分の献立について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態) 	
14 ～ 17	1編3章 調理のための食品の選択と購入	①食品の選択と購入	B(3) ア	<ul style="list-style-type: none"> 食品を選択する観点について知る。 食品の表示について調べ、まとめる。 用途に応じた食品の選択について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 調理実習で使用する生鮮食品や加工食品の表示調べを行い、主体的な学習となるように配慮する。 調理実習で使用する食品を取り上げ、用途に応じて選択するために必要な情報を収集・整理し、適切な選択をするための工夫を考えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択について理解しているとともに、適切にできる。(知) 食品の選択について、問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。(思) 食品の選択について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
		②生鮮食品の特徴	B(3) ア	<ul style="list-style-type: none"> 生鮮食品の特徴と表示の内容、品質の見分け方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生鮮食品は、調理実習で用いる肉や魚、野菜などを扱う。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活と関連付け、用途に応じた生鮮食品の選択について理解しているとともに、適切にできる。(知)
		③加工食品の特徴	B(3) ア	<ul style="list-style-type: none"> 加工食品の特徴と表示の内容、品質の見分け方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 加工食品は、生徒に身近なものを扱う。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活と関連付け、用途に応じた加工食品の選択について理解しているとともに、適切にできる。(知)
		④食品の保存と食中毒の防止	B(3) ア	<ul style="list-style-type: none"> 食品のさまざまな保存方法を知る。 食中毒の防止について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 保存方法と食品の腐敗や食中毒の原因を関連付けて扱い、適切な保存と計画的な購入の必要性に気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 食品の安全と衛生に留意した管理について理解しているとともに、適切にできる。(知)

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点	
18 ~ 31	1編4章 日常食の調理と地域の食文化	①日常食の調理	B(3) アイ	<ul style="list-style-type: none"> ・献立を決め、食品の調理上の性質を生かした調理の要点をまとめる。 ・調理に必要な手順や時間を考え、調理計画を工夫する。 ・調理実習の準備をする。 ・安全と衛生に気を付けて調理をする。 ・試食をする。 ・後かたづけをする。 ・調理実習の反省をし、評価をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜や肉、魚を用いた献立を考え、調理上の性質を生かした調理方法を工夫するように助言する。 ・調理の手順について、安全で能率的な方法を考えさせる。 ・調理の用途に応じた食品の選択を工夫させる。 ・調理の目的や食材に合った基本的な調理操作を習得できるようにする。 ・環境へ配慮した調理や後かたづけができるように助言する。 ・反省を、次回に生かすようにする。 [小]ゆでたり、いためたりする調理 [小]ご飯とみそ汁の調理	<ul style="list-style-type: none"> ・食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理について理解しているとともに、適切にできる。(知) ・材料に適した加熱調理の仕方について理解しているとともに、基礎的な日常食の調理が適切にできる。(知) ・日常の1食分の調理について問題を見いだして課題を設定し、実践に向けた計画を考え、工夫している。(思) ・日常の1食分の調理について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
		②野菜・いもの調理	B(3) アイ	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜・いもの調理上の性質を知る。 ・安全と衛生に気を付けて、野菜・いもの調理をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜・いもの性質や調理方法を理解できない場合は、図や写真などを活用して理解させる。 ・調理実習が手順よく進められない場合には、次の作業を具体的に指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜・いものに適した加熱調理の仕方について理解しているとともに、基礎的な日常食の調理が適切にできる。(知) ・野菜・いもの調理について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。(思) ・野菜・いもの調理について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
		③肉の調理	B(3) アイ	<ul style="list-style-type: none"> ・肉の調理上の性質を知る。 ・安全と衛生に気を付けて、肉の調理をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・肉の性質や調理方法を理解できない場合は、図や写真などを活用して理解させる。 ・調理実習が手順よく進められない場合には、次の作業を具体的に指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・肉に適した加熱調理の仕方について理解しているとともに、基礎的な日常食の調理が適切にできる。(知) ・肉の調理について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。(思) ・肉の調理について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態)

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
	④魚の調理	B(3) アイ	<ul style="list-style-type: none"> 魚の調理上の性質を知る。 安全と衛生に気を付けて、魚の調理をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 魚の性質や調理方法を理解できない場合は、図や写真などを活用して理解させる。 調理実習が手順よく進められない場合には、次の作業を具体的に指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 魚に適した加熱調理の仕方について理解しているとともに、基礎的な日常食の調理が適切にできる。(知) 魚の調理について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。(思) 魚の調理について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
	⑤日本の食文化と和食の調理	B(3) アイ	<ul style="list-style-type: none"> 地域の食材や季節の食材について調べる。 地域の食文化について調べる。 地域の食材を用いた和食の調理をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域との連携を図り、地域の食材を生かした和食の調理実習につながるように配慮する。 地域の実態に応じて、地域の伝統的な行事食や郷土料理などを調理題材として扱う。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の食文化について理解しているとともに、地域の食材を用いた和食の調理が適切にできる。(知) 和食の調理について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。(思) 和食の調理について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
	⑥持続可能な食生活を目指して	B(1)－ (3), C(2)	<ul style="list-style-type: none"> 食生活を取り巻く問題を把握し、持続可能な食生活のためにできることを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 食生活を取り巻くさまざまな問題を、いろいろな角度から考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な食生活を目指して、課題とその解決方法について考え、工夫している。(思) よりよい食生活を目指して、食事の役割や栄養、献立、調理などについて、工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
32 ～ 35	生活の課題と実践	B(7), C(3)	<ul style="list-style-type: none"> 学習してきたことを生かし、改善する点や課題はないか、自分や家族の食生活を見直す。 課題を解決したり、より豊かな生活にしたりするための工夫を考え、計画を立て実践する。 (例) エコクッキングにチャレンジ 立てた計画をグループで発表し合い、計画を見直す。 各自で実践したことをまとめ、発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 複数の内容を関連させた課題を設定できるようにする。 目的を明確に持ち、個性や工夫を生かせるようにする。 計画、実践、評価、改善の一連の学習活動であることを重視させる。 各自の課題の解決を目指した問題解決的な学習を進め、主体的な活動となるように配慮する。 学習した知識と技能を活用し、家庭で実践する意義にも気付かせる。 実践して分かったこと、これからの生活で更に工夫して生かしたいことまで考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分や家族の食生活や消費生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。(思) 自分や家族の食生活や消費生活について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態)

■ 2年

* (知) …知識・技能 (思) …思考・判断・表現 (態) …主体的に学習に取り組む態度
 * [小] …小学校家庭科での学習内容

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
1 〜 8	2編1章 衣服の選択と手入れ				
	① どうして衣服を着るのだろう	B(4)ア	・衣服の目的に応じた着方や個性を生かした着方を考えながら、衣服の働きをまとめる。	・目的に応じて衣服の着方が違う点に着目させ、衣服の社会生活上の働きを考えさせる。 [小]衣服の保健衛生上や生活活動上の働き	・衣服と社会生活との関わりについて理解している。(知) ・目的に応じた着用について理解している。(知)
	② 私らしさとT.P.O.～着方の工夫～	B(4)ア	・個性を生かした服装について知り、自分らしい着方を考える。	・色や形などの調和や自分らしさを考えた着方を工夫させる。	・個性を生かす着用について理解している。(知) ・自分らしい着方について考え、工夫している。(思) ・目的に応じた着用を踏まえた自分らしい着方について、工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
	③ 日本の衣文化	B(4)ア	・日本の伝統的な衣文化について知り、和服と洋服の構成や着方の違いに気付く。	・和服の構成やたたみ方から、和服の特徴や文化について理解させる。	・衣服と社会生活との関わり(和服)について理解している。(知) ・衣文化の継承について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。(態)
	④ 衣服計画と必要な衣服の選択	B(4)アイ	・衣服調べをして、必要な衣服の数量を把握し、過不足や処分の仕方を考える。 ・手持ちの衣服の活用を考えながら、表示や縫製の良否、手入れの方法や価格など、既製服の適切な選択方法を知る。	・衣服の入手については、購入するだけでなく、環境に配慮する視点から、譲り受けたり、リフォームしたりする方法にも触れる。 ・衣服を自分で管理する大切さを知らせ、既製服の適切な選択方法を理解させる。	・衣服の適切な選択について理解している。(知) ・衣服の計画的な活用の必要性について理解している。(知) ・衣服の選択について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。(思) ・衣服の選択について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
⑤ 衣服の手入れ	B(4)アイ	・衣服の洗濯や補修などの手入れの必要性を理解し、衣服の材料や状態に応じた手入れの方法を知る。	・衣服を快適に着用するために手入れが必要であることに気付かせ、手入れの実習をさせる。 ・洗濯については、手洗いを基礎とし、洗濯機を適切に使用できるようにする。 [小]手洗いによる洗濯	・衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解しているとともに、適切にできる。(知) ・材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方(洗濯、収納、補修、アイロンなど)について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。(思) ・材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方(洗濯、収納、補修、アイロンなど)について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態)	

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点	
9 ～ 15	2編2章 生活を豊かにするために	①作って楽しい布作品	B(5) アイ, C(2)	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で、あるといいなと思うものを考えさせる。 製作に必要な材料や用具、製作手順や時間などの見通しを持つ。 身の回りの生活を快適にしたり、資源や環境に配慮したりするなど、自分や家族、地域の人々の生活を豊かにする具体的な物を製作する。 	<ul style="list-style-type: none"> 補修の技能を生かした製作品を考えさせる。 計画内容を確認し、安全で能率よく実践できるよう、今後の学習の見通しを持たせる。 手縫いやミシン縫い、アイロンなど基礎的・基本的な知識や技能を活用させる。 完成後の製作品や、それを活用している姿を想像しながら製作に臨ませると、学習意欲が高まる。 製作を通して、自分や家族の生活を豊かにすることの大切さを実感させる。 [小]布を用いた製作	<ul style="list-style-type: none"> 製作する物に適した材料や縫い方について理解している。(知) 用具を安全に取り扱い、製作が適切にできる。(知) 資源や環境に配慮し、生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。(思) 資源や環境に配慮し、生活を豊かにするための布を用いた物の製作について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
	②持続可能な衣生活を目指して	B(4), (5), C(2)	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な衣生活を目指して、衣服計画を立て、衣服の活用や管理の方法を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 衣生活の自立に向けて、自分にできることを具体的に考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な衣生活を目指して、課題とその解決方法について考え、工夫している。(思) よりよい衣生活を目指して、衣服の選択と手入れや生活を豊かにするための布を用いた製作について、工夫し創造し、実践しようとしている。(態) 	
16 ～ 23	3編1章 住まいの役割と安全な住まい方	①もしも住まいがなかったら	B(6) ア	<ul style="list-style-type: none"> 住まいの役割や基本的な機能について考える。 自分や家族の生活と住まい方との関わりを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 住空間と生活行為との関係を理解させ、家族がどのような生活を重視するかで住まい方が異なることに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 家族の生活と住空間との関わりについて理解している。(知) 住居の基本的な機能について理解している。(知)
		②住まいと気候風土の関わり	B(6) ア	<ul style="list-style-type: none"> 和式の住まい方が現代にも受け継がれていることを理解する。 日本では各地の気候に合わせた住まいの特徴があることに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 住まいや住まい方は気候風土や文化によって異なり、日本国内でも違いがあることに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 和式の住まい方や日本各地の住まいの特徴などと住空間の関わりについて理解している。(知) 住文化の継承について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。(態)
		③健康で快適な室内環境	B(6) アイ	<ul style="list-style-type: none"> 健康で快適な室内環境の条件を知り、改善方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 室内の空気の汚染が及ぼす影響を取り上げ、室内環境を整える必要性に気付かせ、改善方法を考えさせる。 [小]整理・整頓や清掃の仕方、暑さ・寒さ、通風・換気、採光、音	<ul style="list-style-type: none"> 室内の空気環境など、家族の健康・快適・安全を考えた住空間の整え方について理解している。(知) 室内の空気環境など、家族の健康・快適・安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫している。(思) 室内の空気環境など、家族の健康・快適・安全を考えた住空間の整え方について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。(態)

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
	④家族の住まいを安全・安心に	B(6) アイ	・家庭内事故とその原因について知り、安全に住むために改善できることを考える。	・家庭内事故の具体例から、安全管理の方法を考えさせる。	・家庭内の事故の予防や対策など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解している。(知) ・家庭内の事故の予防や対策など家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫している。(思) ・家庭内の事故の予防や対策など家族の安全を考えた住空間の整え方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
	⑤災害への対策	B(6) アイ	・住まいの災害対策について知り、災害に備えてできることを考える。	・災害の特徴を知らせ、住まいの災害対策を具体的に考えさせる。	・自然災害への備え方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解している。(知) ・自然災害への備え方など家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫している。(思) ・自然災害への備え方など家族の安全を考えた住空間の整え方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
	⑥持続可能な住生活を目指して	B(6), C(2)	・持続可能な住生活のために、課題を見つけ、改善方法を考える。	・具体例を挙げて、持続可能に住まうためにできることを考えさせる。	・持続可能な住生活を目指して、課題とその解決方法について考え、工夫している。(思) ・よりよい住生活を目指して、住居の機能と安全な住まい方について、工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
24 ～ 29	4編1章 私たちの消費生活 ①消費者としての自覚	C(1) ア	・自分や家族の消費生活を振り返り、適切な消費行動について考える。 ・契約の意味について理解する。	・自分の消費に使える金銭には限りがあることや優先順位を考えた計画的な支出が必要であることを気付かせる。 [小]物や金銭の大切さ、計画的な使い方、買い物の仕組み	・物資・サービスについて理解している。(知) ・売買契約の仕組みについて理解している。(知)
	②購入方法と支払い方法	C(1) ア	・具体的な買い物の場面を取り上げ、購入方法や支払い方法について考える。	・購入方法や支払い方法について理解させる。 [小]買い物の仕組み	・購入方法や支払い方法の特徴を理解している。(知)
	③バランス良く計画的な金銭の管理	C(1) ア	・計画的な金銭管理の必要性を理解する。 ・三者間契約の仕組みについて理解する。	・バランスの良い金銭管理のために、自分や家族の中での優先順位について考えさせる。 ・社会(公民)とも関連させながら、三者間契約の仕組みや特徴について理解させる。 [小]物や金銭の計画的な使い方	・計画的な金銭管理の必要性について理解している。(知) ・自分に合った金銭管理の方法を考え、工夫している。(思) ・計画的な金銭管理について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態)

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点	
	④消費者トラブルとその対策	C(1)ア	<ul style="list-style-type: none"> 消費者に関わるトラブルなどの実際の例を取り上げ、その解決方法について考える。 消費者トラブルの解決方法をグループで話し合い、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生に関わりの深いトラブル事例を取り上げて、調べさせるなど、生徒が主体的に学習できるように工夫する。 消費生活センターやクーリング・オフ制度などについて理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 消費者トラブルの事例とその対応について理解している。(知) 消費者トラブルを未然に防いだり解決したりするための方法を考え、工夫している。(思) 消費者トラブルの対応について、課題の解決に主体的に取り組み、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態) 	
	⑤何を考えて決めますか～意思決定のプロセス～	C(1)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 商品（物資やサービス）を適切に選択、購入する方法について考える。 商品の選択、購入をするときに必要な情報を収集し、整理する。 商品の活用方法についても考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 意思決定のプロセスを用いて商品購入についてシミュレーションさせる。 本当に必要かどうか判断することの大切さに気付かせる。 商品の表示やマークについて知らせる。 多くの情報の中から適切な情報を収集・整理し、物資やサービスの適切な選択ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 商品（物資・サービス）の選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。(知) 商品（物資・サービス）の選択について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。(思) 商品（物資・サービス）の選択について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態) 	
30 ～ 32	4編2章 責任ある消費者になるために	①消費者としてできること～権利と責任～	C(2)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 実際の消費生活と結び付け、消費者の権利や責任について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 消費者の権利と責任については、中学生の消費行動や具体的な事例と関わらせて考えさせる。 消費者基本法の趣旨を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 消費者の基本的な権利と責任について理解している。(知) 自立した消費者としての消費行動について考え、工夫している。(思) 消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組み、工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
	②省エネルギーと持続可能な社会	C(2)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 自分や家族のエネルギー消費が環境に与える影響について知らせ、エネルギー消費を減らす方法について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭でできる省エネルギーについて具体的に考えさせる。 自分や家族の生活の仕方が身近な環境に与える影響について考えやすくするために、具体的な事例などを提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解している。(知) 自立した消費者としての環境に配慮した生活について考え、工夫している。(思) 自立した消費者としての環境に配慮した生活について、課題の解決に主体的に取り組み、工夫し創造し、実践しようとしている。(態) 	
	③持続可能な消費生活を目指して	C(1),(2)	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な社会を目指して、自分や家族ができることを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な社会を目指して、自分の生活の在り方を考え、工夫し実践することの大切さを理解させる。 環境に配慮した消費生活が持続可能な社会を形成する基盤であることに気付かせる。 これからの生活を展望して、1人1人が環境に配慮した生活を送る必要性に気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な消費生活を目指して、課題とその解決方法について考え、工夫している。(思) 自立した消費者としての社会や環境について、課題の解決に主体的に取り組み、工夫し創造し、実践しようとしている。(態) 	

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
33 ～ 35	5 編 1章 家族・家庭と地域	①私たちの生活と家族・家庭の機能	A(1) ア ・家庭や家族の基本的な機能について考える。 ・家庭や家族の大切さについて考える。 ・自分の成長を振り返る。	・家庭や家族の機能として、子どもを育てる機能や心の安らぎなどの精神的な機能があることを取り上げ、それらは衣食住などの生活の営みによって支えられていることに気付かせる。	・家族や家庭生活との関わりについて理解している。(知) ・家族・家庭の基本的な機能について理解している。(知) ・家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付いている。(知) ・自分や家族がになう家族・家庭の基本的な機能を考え、生活を工夫している。(思)
	②中学生としての自立	A(1) ア ・自分と家族との生活を振り返り、中学生としての自立について考える。	・中学生になった自分と家族の生活を振り返り、家庭における自分の役割に気付かせる。その際、小学校での学習内容や、家庭分野のガイダンスのページを活用するなど、家族や地域の一員としてできることを具体的に考えられるように工夫する。 [小]家庭の仕事	・中学生になった自分と家族の生活を振り返り、家庭における自分の役割に気付かせる。その際、小学校での学習内容や、家庭分野のガイダンスのページを活用するなど、家族や地域の一員としてできることを具体的に考えられるように工夫する。 [小]家庭の仕事	・自分の成長と家族や家庭生活との関わりについて理解している。(知) ・家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付いている。(知) ・自立に向けて中学生の自分にできることを考え、工夫している。(思)
	③家庭生活と地域との関わり	A(1) ア ・地域の活動などを調べ、自分や家族がどのように関わっているか考える。	・家庭生活は、地域の人々とのつながりの中で成り立っており、相互の関わりによって生活をよりよくできることに気付かせる。 ・日常生活から、具体的な事例を挙げさせ、地域の人々との関わりを考えさせる。	・家庭生活は、地域の人々とのつながりの中で成り立っており、相互の関わりによって生活をよりよくできることに気付かせる。 ・日常生活から、具体的な事例を挙げさせ、地域の人々との関わりを考えさせる。	・地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付いている。(知) ・地域の幼児や高齢者など、自分と異なる立場の存在に気付いている。(知)

■ 3年

* (知) …知識・技能 (思) …思考・判断・表現 (態) …主体的に学習に取り組む態度
 * [小] …小学校家庭科での学習内容

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
1 と 6	5編2章 ①幼い頃の振り返り	A(2) ア	・自分の幼児期を振り返り、幼い頃の夢、エピソードなどをまとめる。	・幼い頃に好きだったものなどをまとめさせたり、インタビューや写真、ビデオなどを手がかりにしたりして振り返ることができるようにする。 ・生徒のプライバシーには、十分に配慮する。 [小]自分の成長と家族	・幼い頃を振り返り、周囲の人との関わりの大切さについて理解している。(知)
	②幼児の体の発達	A(2) ア	・幼児の体の発達の特徴について考える。	・身体の発達や運動機能、生理的機能の発達の概要とそれを支えている生活の重要性について分かるようにする。 ・体や運動機能の発達には、一般的な方向や順序があるとともに個人差があることに気付かせる。	・幼児の体の発達の特徴について理解している。(知)
	③幼児の心の発達	A(2) ア	・幼児の心の発達の特徴について考える。	・情緒、社会性、言葉の発達の概要とそれを支えている生活の重要性について分かるようにする。 ・心の発達には、一般的な方向や順序があるとともに個人差があることに気付かせる。 ・心の発達には家族や身近な人への信頼関係を形成することが大切であることに気付くようにする。	・幼児の心の発達の特徴について理解している。(知)
	④幼児の1日の生活	A(2) ア	・幼児の1日の生活を自分たちの生活と比較することで、幼児の特徴を理解する。	・幼児と中学生の1日の生活を比較させて、幼児の特徴に気付かせる。	・幼児の発達と生活の特徴について理解している。(知)
	⑤支えられて身に付ける生活習慣	A(2) ア	・幼児の生活習慣がどのように身に付いていくのか考える。 ・生活習慣の習得を支える家族の役割を考える。	・食事、睡眠、排せつ、着脱衣、清潔などの基本的な生活習慣については、生活の自立を目指し、幼児の心身の発達に応じて身に付けさせる必要があることを理解させる。 ・生活習慣の習得については、幼児の心身の発達に応じて、周囲の大人が適切に関わり、身に付けさせる必要があることに気付くようにする。	・幼児の発達と生活の特徴について理解している。(知) ・幼児の生活習慣の習得を支える家族の役割について理解している。(知)

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
	⑥幼児の生活と遊び	A(2) ア	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の生活やいろいろな遊びを観察し、遊びで育つ力について考える。 ・遊び道具や遊び場所について調べ、遊び道具の役割や遊ぶ環境について考える。 ・遊び道具を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児にとっての遊びは、生活そのものであり、身体の発育や運動機能、言語、情緒、社会性などの発達を促していることが分かるようにする。 ・幼児期に適切で十分な遊びを経験することが子どもの成長にとって重要であることに気付かせる。 ・発達段階や子どもによって、遊びの種類や遊び方、友達との関わり方などが異なる特徴を持っていることに気付かせる。 ・遊び道具は、子どもの成長やコミュニケーションを促す上で大切であることに気付かせる。 ・遊び道具の製作の目的は、幼児の理解を深めることが目的であることを押さえる。 ・幼児の心身の発達を踏まえ、幼児が興味を持って楽しく遊べる遊び道具になるよう工夫させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児にとっての遊びの意義について理解している。(知) ・幼児との関わり方について理解している。(知) ・幼児の遊びの意義を踏まえ、幼児との関わり方を工夫している。(思)
7 ~ 8	生活の課題と実践	A(4), B(7), C(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・学習してきたことを生かし、改善する点や課題はないか自分や家族、幼児の衣生活を見直す。 ・課題を解決したり、より豊かな生活にしたりするための工夫を考え、計画を立て実践する。 (例) 余り布で幼児の小物作り ・立てた計画をグループで発表し合い、計画を見直す。 ・各自で実践したことをまとめ、発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の内容を関連させた課題を設定できるようにする。 ・目的を明確に持ち、個性や工夫を生かせるようにする。 ・計画、実践、評価、改善の一連の学習活動であることを重視させる。 ・各自の課題の解決を目指した問題解決的な学習を進め、主体的な活動となるように配慮する。 ・学習した知識と技能を活用し、家庭で実践する意義にも気付かせる。 ・実践して分かったこと、これからの生活でさらに工夫して生かしたいことまで考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や家族、幼児の衣生活や消費生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。(思) ・自分や家族、幼児の衣生活や消費生活について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
9 ~ 14	5編2章 ⑦幼児との関わり方の工夫 幼児の生活と家族	A(2) アイ	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児との触れ合いについて、自分の課題を設定する。 ・幼児に合った接し方や遊びを工夫し触れ合う方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自分なりの課題を持ち、幼児の発達の状況に応じた関わり方を工夫し、実践できるようにする。 ・幼児と触れ合うことの良さに気付くなど、幼児との関わりが積極的に行えるようにする。 ・できるだけ直接体験ができるよう工夫する。しかし、幼児と触れ合う活動が困難な場合は、視聴覚教材やロールプレイングなどを活用し、関わり方の工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児との関わり方について理解している。(知) ・幼児との関わり方について問題を見いだして課題を設定し、計画している。(思) ・幼児との関わり方について、課題の解決に主体的に取り組む、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。(態)

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
	⑧幼児との関わりを生活に生かす	A(2)アイ	・幼児との触れ合い活動を通して、学んだことを発表する。	・体験したことを振り返ったり、まとめたり、話し合ったりするなど、幼児との関わりが深まるようにする。	・幼児との関わり方での課題解決に向けた一連の活動について実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。(思) ・幼児との関わり方での課題解決に向けた一連の活動について、振り返って改善し、工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
	⑨子どもにとっての家族	A(2)アイ	・子どもが育つ環境としての家族の役割を考える。	・家庭生活の中で、親やそれに代わる人が愛情を持って接し、幼児との基本的な信頼関係を形成することが大切であることに気付かせる。	・子どもが育つ環境としての家族の役割について理解している。(知) ・家族の立場から幼児との関わり方について考え、工夫している。(思) ・家族の立場からの幼児との関わり方について、工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
15 ～ 17	5編3章 これからの家族と地域	①家族との関わり	A(3)アイ ・家族との関わりや、これからの自分の家庭生活について考える。 ・家族関係をよりよくする方法を考える。	・家族の互いの立場や役割を理解し、協力して家族関係をよりよくすることが大切であることに気付かせる。 ・家族関係をよりよくするためにどのような方法があるか、家族の一員としてどのようなことができるのか、具体的に考えさせ、これからの生活で実践できるようにさせる。 ・生徒に関わりの深い課題を取り上げ、ドラマ、物語、ロールプレイングなどを通して、具体的に考えさせる。 ・生徒のプライバシーには、十分に配慮する。	・家族の互いの立場や役割について理解している。(知) ・家族と協力することによって家族関係をよりよくできることについて理解している。(知) ・家族関係をよりよくする方法について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。(思) ・家族関係をよりよくする方法について、課題の解決に主体的に取り組み、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善し、工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
	②家族や地域の高齢者との関わり	A(3)アイ	・高齢者の体の特徴を理解する。 ・高齢者の体の特徴を踏まえ、関わり方を考える。	・高齢者の体の特徴を挙げさせることで、どのように関わるのが適切か、考えさせる。 ・高齢者との関わり方を体験的な活動を通して考えさせる。	・高齢者など地域の人々と協働する必要があることについて理解している。(知) ・介護など高齢者との関わり方について理解している。(知) ・高齢者との関わり方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。(思) ・高齢者との関わり方について、課題の解決に主体的に取り組み、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善し、工夫し創造し、実践しようとしている。(態)

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
	③地域での協働を目指して	A(3) アイ	<ul style="list-style-type: none"> 家庭生活が地域との相互の関わりで成り立っていることに気付く。 地域のために自分ができることを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域での自分の役割はどのようなものか、考えさせる。 地域のためにできることを、ドラマ、物語、ロールプレイングなどを通して、具体的に考えさせる。 生徒のプライバシーには、十分に配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることについて理解している。(知) 地域の人々と協働する必要があることについて理解している。(知) 地域の人々と関わり、協働する方法について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。(思) 地域の人々と関わり、協働する方法について、課題の解決に主体的に取り組み、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善し、工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
17 ? 17.5	学習を終えて	A, B, C	<ul style="list-style-type: none"> 3学年間の学習を振り返り、多くのことができるようになったことに気付く。 できるようになったことから、これからの生活で生かしていきたいことを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 内容ごとに振り返らせ、多くのことができるようになったことに気付かせる。 学習がどのように生活に生かすことができるか、未来の自分への手紙などで考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭分野で学習したことを今後の生活に生かそうとしている。(態)